

別記様式

		担当課	教育部 教育総務課
会 議 の 名 称		第3回 鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会	
開 催 日		令和2年9月11日（金）	
開 催 時 間		午前10時00分 開会・午前11時48分 閉会	
開 催 場 所		鴻巣市役所 本庁舎 3階 303会議室	
出席者(委員)氏名 (出席者数)		石崎一記、羽鳥守、牧田卓司、林義典、荻野浩、鷹巣美和、鉢村優子、 川島快友、佐藤芳隆、清水励 (10名)	
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)		日比暁美、酒巻和生（2名）	
事務局職員職氏名		教育長 武藤 宣夫 教育部長 齊藤 隆志 教育部参与 野本 昌宏 教育部副部長 清水 千之 教育部副部長兼学務課長 大島 進 教育総務課長 鳥沢 保行 教育総務課副課長 藤平 健司 教育総務課副主査 新井 洋平 (8名)	
傍聴の可否（傍聴者数）		可（傍聴者5名）	
会 議 の 内 容	(議題) 1 開会 2 あいさつ 3 懇談内容 笠原小学校の今後の方向性について 4 その他 5 閉会		

(決定事項など)

3 懇談内容 笠原小学校の今後の方向性について

- ・教育委員会より、笠原小学校については、今後、児童数の減少が見込まれる中で、条例上、廃止する方向での検討を考えると、前回の懇話会でお伝えしたが、その後、7月に在校生保護者や令和3年度笠原小学校への入学予定児童の保護者、笠原地区自治会長との意見交換会を実施し、また、8月の広報配布に併せて、笠原地域の全世帯 759 世帯に対して、意見・提案等をいただくためのアンケートを実施したことを説明した。
- ・これらを踏まえた上で、教育部で検討した結果、具体的なスケジュール（案）を作成し、令和3年度にかけては、統廃合に関する準備期間として、保護者や地域との意見交換の場を設けるとともに、交流事業の実施や準備委員会等を設置し、関係者による、統合に向けた詳細についての擦り合わせを行った上で、令和4年3月31日に笠原小学校の閉校、4月1日に鴻巣中央小学校との統合に向けて取り組みたいと提案。懇話会でも意見をもらいたい旨を伝えた。

(懇話会委員の主な意見)

- ・通学区域の弾力化において、笠原地域から鴻巣中央小学校へ通学している児童は1年生と2年生であり、3、4年生はいない。通学区域の弾力化を適用して指定校変更する場合は、保護者の責任において、通学することを前提とし、通学区域審議会の答申における付帯意見である「通学の安全性の確保」といった項目に基づき対応している。
- ・笠原小学校の通学に関しては、特別な事情、教育委員会としての登校支援に関する制度設計をする上で、情報収集としてやっていると思って良いか。現実的に、市内全地域を対象に、登校支援を実施するわけにはいかないと思うので、原則は崩したくない。
- ・送迎に関する支援に関しては、制度や実施に関する根拠がないので、来年度以降何を根拠とすればよいのかなど、検証する中でデータ収集等のため実施しているとした方がよいのではないか。通学区域の弾力化は、送迎ありきといった考えは危険。
- ・今後、全地域的に適正配置等が実施された際に、情報は必要となる。通学区域審議会の答申の中で、「通学の安全性の確保」に基づき、原則はもちろん踏まえた上で、保護者からの強い要望により、教育委員会が協議の結果、登校支援を実施している。今後、笠原小学校が条例上廃止となった場合については、下校支援等も検討する。
- ・付帯意見は鴻巣中央小学校となってからの話であったと理解していた。そうなった場合、あくまでも笠原地域においては送迎が必要となることが予想されるので、問題の洗い出しのために、制度としてではなく実施しているものだと理解している。送迎が当たり前となってしまうのは良くない。
- ・通学区域の弾力化のその他の部分を活用して、来年度以降、笠原小学校の在校生が、統合が見えているために、早めに行こうと、雪崩が起こって、送迎が増えたとなると、今の状態で対応出来るのか不安がある。
- ・来年度、残った在校生が少人数となった場合、1年間複式学級の対応が迫られる。これについてはどうか。基準に対して、特別措置として対応するのが現実的ではないか。

- ・スケジュールについて反対しているわけではない。このくらいの期間（スケジュールを示してから約1年半）は必要だと考えている。
- ・意見交換会では原則論として、通学区域は笠原小学校だと伝えている。原則を伝えた上で、最後は在校生の皆さんで卒業生を見送る考えは伝えた。在校生が雪崩式に鴻巣中央小学校に転校となるかはわからないが、そうならないよう願っている。しかし、これは教育委員会で止められるものではなく、保護者の意思と考えている。
- ・笠原小学校への新入学児童が何人かいて、在校生がこのままであれば、複式学級にはならないので、そのような状況を期待している。
- ・下校の支援については、意見として相当数いただいているため、下校時間が学年によって異なること等も含めて、検討が必要だと考えている。
- ・情報が少なく、戸惑っているというのが第一印象。教育委員会としては、細かい内容が決まっていなくても情報が出せないという事は理解できるが、説明会といった形でなくても、疑問点を届ける仕組みを作してほしい。
- ・行政では議会を軽視することはできないため、タイミングは難しいが、説明会や送迎の際など、保護者との情報共有をしていきたい。議案が可決された際には、まずは保護者を第一に説明していきたい。
- ・笠原小学校に関する今後の方針について、併せて鴻巣中央小学校の方にも周知してもらいたい。
- ・笠原地域も含めた、新たな鴻巣中央小学校区となることを考えてほしい。
- ・準備委員会や交流事業について何が可能なのか考えていきたい。笠原地域の方々、PTAの方々との擦り合わせが必要な事が多い。
- ・鴻巣中央小学校との統廃合については、適正配置の取組の中で統合となるため、子どもたちが望んでそうになっているわけではない。自分たちの学校となると感じられる配慮が必要だと感じている。
- ・統廃合という言葉について、北本市のような方法か、川島町や熊谷市のような方法か、どちらなのか。校名の変更等、そのスケジュールが分かれば教えてもらいたい。
- ・今後、全地域で適正配置等について進めていかなくてはいけない。
平成27年に適正配置等審議会が開催されたが、その諮問の中で、通学区域の見直し、小中一貫教育、適正配置と3つの諮問事項のうち、適正配置の枠の中には、笠原小学校、鴻巣中央小学校、のほかに常光小学校も含まれていた。仮に今後、常光小学校の適正配置に、取り組んだ場合、統合があるとすると、再び校名変更が必要といった議論がされることになってしまう。校名を変更するか、しないかについては、もう少し時間が必要である。
- ・笠原小学校の子と鴻巣中央小学校の子と一緒に学ぶことになるが、分け隔てなく安心して学ぶこと、これだけを見ていきたい。色々な立場の人たちが色々な場所で、色々なことを言ってしまう、壁が出来なければよいと思う。
- ・今後、色々な交流を通して、令和4年度に一緒になった時に、会えることが待ち遠しかったとなるように検討していきたい。これが最も重要であると考えている。

- ・校名が変わるというのは大きなことであり、歴史の長さは関係ないと思っている。鴻巣中央小学校の子どもたちも、例えば、校歌が好きであるため、変更となった時には影響が大きいと考える。仮に、笠原小学校の子が一緒になったために、自分たちの学校も変わってしまったとなった場合、変化を受け入れさせるには、非常に難しい事なのかもしれない。子どもは柔軟だと思うが。
- ・校名が変わるといった時に重要と考えるのは、子どもたちがどれだけのものを背負って、変えないと障害があるのか、このような事が分かれば変更も仕方ないと考える。
- ・経験上、自分の母校も統合によりなくなってしまったが、統合後の中学が、自分たちの学校であるといった意識をすでに持っている。
- ・交流事業等において、お互いに校歌を歌う等の積み重ねが重要であり、新しい学校だからと言って、校名や校歌を変えればいいといったものではない。
- ・笠原地域を校区に含めた、新しい鴻巣中央小学校との意識を全員が持てば良いと考える。丁寧に対応していくことは重要であるが、あまり大騒ぎせず、変えなくてよいところまで変える必要はない。
- ・笠原小学校が廃止となることについて、寂しい思いはもちろんあるが、新しい学校に向けて誰か引っ張ってもらえれば、良いと考える。
- ・雪崩式の話について、在校生の中では令和3年度中の転校の話はあまり聞いていない。今回のスケジュールのように、見通しが立っていれば、家族の中でも結論が出し易いと考える。
- ・中学二年の時に統廃合を経験している。小学生と中学生の精神的な違いがあると思うが、転入生が沢山来た、友達が沢山できたといった感覚。賑やかになって非常によかった。もちろん校名も校歌も変わっていない。意外と大人が思うほど、子どもたちは、校名や校歌に寂しい思い等はないのではないか。
- ・送迎等のケアは必要かと思うが、準備期間等を丁寧にやっていければ、子どもにとってはスムーズにいくのではないかと考えている。
- ・統廃合と地域振興は切り離して考えられるのではないか。
- ・赤見台地域には2つの小学校があり、小学校の属する自治会はその小学校の取組に関わるが、連合会の取組については、2つの小学校から同じように関わってもらっている。
- ・地域の中の祭りやその自治会連合会の中で、統合に関しても、経験上、違和感はない。
- ・大勢の友達が出来て、後になってみれば良い経験だったと考える。校歌等、古くからの住民だと失くしてほしくないと思うが、大事なのは子供たちが気持ちよく、通学する環境が整えられるかである。周りは盛り立てていくのが大事だと考える。
- ・前回の懇話会において、鴻巣中央小学校との統合に関する方針が示されたが、このままスケジュール通り進むと仮定して、まだ指定校は笠原小学校であり、令和4年度に鴻巣中央小学校に変更となるため、特に令和3年度は、子どもたちや保護者の動きは活発となるのではないか。
- ・前回の通学区域審議会については、相当時間をかけたが、令和3年度に鴻巣北中学校に入

学した生徒が、鴻巣中学校に変わることを考えると、わずか3年であるため、考慮してもらいたい。

- ・3年間の中で変わるよりは、卒業までは鴻巣北中学校のまま、または、自由に学校を選択できるといった経過措置等があった方がよい。
- ・学校が廃止されたとしても笠原地域は残るので、地域で子どもを育てるといった、鴻巣市の理念を継続し、笠原地区で実施していた取組は今後も継続してもらいたい。
- ・大人が子どもたちの事を第一に考えていれば、子どもが新たな環境に入った時に、安心できるのではないかと感じた。大人側としても、変化に合わせた対応が必要。
- ・送迎については今後、非常に難しい課題であると思う。ルール等は、作っておいた方がよい。
- ・地域が盛り上がるような PR の方法を、行政としても支援できれば良いのではないかと感じた。
- ・くつつくというよりも、笠原地域は継続していくので、生活や文化は継続され、新たな鴻巣中央小学校の区域として活かしていければ良いと思う。
- ・発達支援が必要な子について、笠原地域で支援が必要な子はすでに鴻巣中央小学校に通っているのか。環境の変化があった場合に、順応が苦手な子もいると思う。
- ・五月雨式での転校は色々な意味で避けたい。子どもたちが鴻巣中央小学校へ何度も転校してくることへの困惑が想像できる。全員が、令和3年度までは笠原小学校で、令和4年度から鴻巣中央小学校といった、仕組みが必要だと感じている。
- ・意見交換会等においては、皆さんで卒業生を見送って全員で鴻巣中央小学校に来られれば良いといった話をしている。
- ・通学の方法等について、条例上、廃止が決定した場合に、支援の方法等検討していきたいと考えている。下校の支援についても必要だと考えている。
- ・統合の準備委員会で、校歌をどこで歌うかなど、細かい内容について話し合っていければ良いと思う。
- ・送迎については、根拠も予算もない中で、無理しない方がよい。送迎するから鴻巣中央小学校に行けと言った話にもなりかねないため、検証、情報収集のためと理解したい。制度としてはやっていないため、条例等が出来た後の話。一番の問題は「見通しが無い」といった不安」だと思う。スケジュールが出されて意見を吸い上げてから、解決すべき課題が多いと思うので、丁寧に対応しすぎることが、逆に不安の種となると感じた。
- ・送迎に関しては、毎朝、鴻巣中央小学校で見ているが、子どもたちの様子は全く問題ない。帰りは保護者が迎えに来るが、重なる時間は駐車場が混むくらいで、特段の問題はない。

4 その他

5 閉会

配布資料	① 笠原小学校 5・6 年生保護者との意見交換会 主な意見・質問と回答 ② 笠原小学校 2・3・4 年生保護者との意見交換会 主な意見・質問と回答 ③ 令和 3 年度笠原小学校へ入学予定の児童保護者との意見交換会 主な意見・質問と回答 ④ 笠原小学校の適正配置に関する自治会長との意見交換会 主な意見・質問と回答 ⑤ 笠原小学校に関する今後の方針について※統廃合スケジュール（案）
------	--

注 会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記入し、記入事項が多い場合は、別紙に記入するものとする。